

# こんちわ新聞

第 3258 号

2015 年  
9 月 28 日

慶應労組  
四谷支部

## 第56回 支部定期大会開催

10月1日(木)17:30～19:30、1年間の総括と方針を話し合う支部定期大会が開かれます。組合員の皆さんは予防講堂に集まりましょう。

労働組合はこの1年間、働き続けられる職場を目指し活動をしてきました。新人事給与制度導入により、45歳で定期昇給がストップされましたが、春闘において31号俸から40号俸までの新設と400円とわずかではありませんが、定期昇給を勝ち取ることができました。今後も住宅手当の復活などを求め、労働委員会の和解に沿った不利益変更に対する交渉を続けていきます。

看護師問題では、夜勤回数や業務量に見合った人員の確保、休暇の取れる体制などを目指し、交渉してきました。課題となっていた労働時間管理(サービスマン)の問題も長年にわたった交渉の成果か、少しずつつけやすくなってきたとの声が聞こえています。

眼球銀行の職場では、事務職員2名がコーディネーターとして365日、24時間対応できるように、交替でオンコール体制をとるといった過酷な状況が続いていましたが、団体交渉で取り上げ、改善することができました。職場から喜びの声が寄せられています。

ユニオンカフェの定期開催、看護師寮前での退勤時間調査や看護師増員署名での対話活動など、職員とのつながり

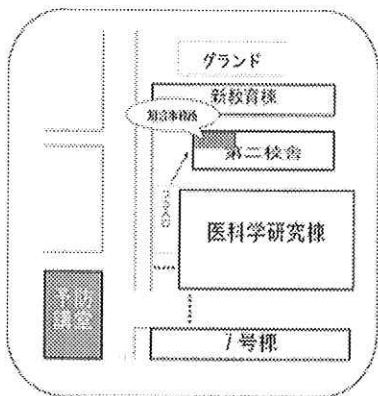
りや要求を大切にしながら活動し、仲間も増やしてきました。

新病院棟の建設が着々と進められています。私たちが働きやすい労働環境がなければ、質の高い、安全な医療体制はできません。労働組合の役割がますます重要となってきました。

毎日仕事が終わると疲れてぐったりですが、10月1日は予防講堂に集まりましょう。職場の状況を出し合い議論しながら、さらに前進できる労働組合をみんなで作っていきましょう!

終了後、組合事務所において交流会あります。

予防講堂地図



## 労働学校で学んできました

毎年9月に奥多摩・御岳山で行われる、東京医労連主催の労働学校に参加してきました。経済学者の山田敬男先生から、労働者とは何か、組合がなぜ必要かという基本から、人権や社会情勢まで分かりやすい講義を受け三日間があつという間に過ぎました。今回特に印象に残ったのは、「外国の方から見た日本人の働き方には三つの間ぬけがある」という話です。

三つとは①空間②時間③人間です。

- ① 空間が抜けているとは、狭く家賃が高く遠方という日本の住宅環境の悪さです。欧米は豊かな住空間で通勤時間はだいたい20分位。1時間は小旅行というのが常識だそうです。
- ② 時間が抜けているとは、労働時間が長いという働き方の問題です。「24時間戦えますか」というドリンク剤のコマーシャルが以前流れました。欧米では8時間労働が守られており、日本の働き方はクレイジーとされています。
- ③ 人間が抜けているとは、仕事に追われる日本人は人との付き合い、家族と過ごす時間が少ないということです。日本では家族一緒の夕食は週1回くらいという人も多くいますが、欧米では毎日一緒が当たり前です。

労働学校で学んだことはとても勉強になり、これからの生き方に大きな影響を受けました。来年の労働学校には、慶應からも多くの若者に参加して欲しいと思います。そして人間らしく幸せに生きて働ける環境を作っていきましょう。知る機会が無いと、仕事に忙殺され人間性を失いかねないと思います。

## いのちまもる「10・22 国民集会」に参加しましょう!

2015年10月22日(木) 13:00~16:30 日比谷野音にて



いのちまもる国民集会は、毎年開催し、この運動の継続と広がりの中で、医師養成数の増加や看護師増員の国会決議採択等の大きな成果を生んできました。今年のスローガンは、

- ①国の責任で、いのちと人権が大切にされる社会保障の充実を
- ②医療・介護の負担増、営利化反対! 診療報酬のマイナス改訂を許すな!
- ③ストップ戦争法、平和なくして医療・介護なし
- ④医師、看護師、介護職員などの大幅増員・処遇改善です。

今年のゲストは、香山リカさんです。

参加できる方は、組合事務所までお知らせ下さい。  
内線 62020 ✉k-yotsuya@keio-union.or.jp